

私はどこから来たのか？ 私は何者か？ 私はどこへ行くのか？（通常版）



「この私」を問い直す 「鏡としての水俣病」

「この私」を振り返り問い直す「鏡」として、水俣病を取り上げます。

「水俣病とは、化学工場から海や河川に排出されたメチル水銀化合物を、魚、エビ、カニ、貝などの魚介類が直接エラや消化管から吸収して、あるいは食物連鎖を通じて体内に高濃度に蓄積し、これを日常的にたくさん食べた住民の間に発生した中毒性の神経疾患です」（環境省水俣病情報センター、http://nimd.env.go.jp/archives/minamata_disease_in_depth/、2022年9月15日アクセス）。水俣病は、人類が初めて経験した大規模な環境汚染による人体被害であるゆえに、「公害の原点」と言われ、持続不可能な社会を象徴する出来事と言えます。

その研究の第一人者で、患者の救済に半世紀にわたって取り組み、1990年代末に水俣学を提唱した医師の原田正純さんは、このように書き記しています。

水俣病は鏡である。この鏡は、みる人によって深くも、浅くも、平板にも立体的にもみえる。そこに、社会のしくみや政治のありよう、そして、みずからの生きざままで、あらゆるものが残酷なまでに映しだされてしまう。そのことは、はじめての人たちにとっては強烈な衝撃となり、忘れ得ないものとなる。（『水俣が映す世界』1989、3頁）

この「鏡としての水俣病」を用いて、「この私」を振り返り問い直すワークに取り組んでみましょう。

進め方

【個人ワーク】

- (1)NHKスペシャル
『戦後50年 その時 日本は 第4回 チッソ・水俣工場技術者たちの告白』（1995年7月1日放送）（59分）
（<https://www.dailymotion.com/video/x2fjt6j>）、2022年12月8日アクセス）を視聴する。
- (2)栗原彬編『証言 水俣病』（岩波書店、2000年）を読む。
- (3)水俣病に関する映像資料を視聴し、
文書資料を読んだ「この私」の心の消息を書く。
- (4)私はどこから来たのか？私は何者か？
私はどこへ行くのか？に対する
「この私」の応答を書く。
- (5)「この私」のこれからの教育についての思いを書く。

NHKウェブサイトには、(1)の映像資料について次のように記されています。

水俣病を引き起こした化学メーカー・チッソは戦前、朝鮮半島北部に巨大なダムと発電所、工場を展開する世界でも有数の化学工業グループとして隆盛を誇った。しかし、敗戦で資産の8割を失い、残された水俣工場で再起をはかる。番組では、視点を当時の窒素の内部に据え、膨大な資料や新しい証言をもとに、なぜ水俣病が起こり、なぜその拡大を防ぐことができなかったのかを検証した。（<https://www.nhk.or.jp/archives/nhk-archives/past/2012/120624.html>）、2022年12月8日アクセス）

岩波書店ウェブサイトには、(2)の文書資料について次のように記されています。

事件の風化が危惧されている今、わたしたちは水俣病を本当に「忘却」できるのか。家族の壮絶な死、周囲からうける差別と偏見、チッソ・行政との長き闘い、そして和解案受諾の選択一、心身を蝕む病苦を抱えながら、どのように生き、何を訴えてきたのかを、10名の患者が語る証言集。その問いかけにどう応えるのか。

(<https://www.iwanami.co.jp/book/b268477.html>)、2022年12月8日アクセス)

この2つの資料には、さまざまな立場から「一人の人間」として水俣病に深く関わった人(たち)の心の動きが刻まれています。これと向き合って、「この私」はどのようなことを感じ、思い、また考えるでしょうか。「一人の人間」である「この私」の心がどのように動き、今、どのような様子であるか、その消息をA4の用紙2枚程度に書いてみましょう。

書き終えたら、改めて「この私」に意識を向けてみましょう。どのようなことが「この私」の心に去来するでしょうか。私はどこから来たのか？私は何者か？私はどこへ行くのか？「この私」の応答をA4の用紙1枚に書いてみましょう。

最後に、「この私」のこれからの教育についての思いを、A4の用紙1枚に自由に書いてみましょう。

【グループワーク】

ここまで、一人で「鏡としての水俣病」に映し出される「この私」の心を尋ね、心の消息を文章に書いてきました。

書いたものを同僚や仲間などと共有し、お互いに質問を出し、感想を伝え合い、それぞれの「この私」と「この私」の教育について話し合ってみましょう。

また、書いたものを原子まで送ってもらっても構いません。このワークをめぐって、対面あるいはオンラインでいろいろお話できれば幸いです。

*連絡先

原子 栄一郎

東京学芸大学環境教育研究センター

電子メール:atom@u-gakugei.ac.jp

水俣病についてももう少し知りたい方は

水俣病に関する資料はいろいろありますが、まずは下記書籍と映像をご覧ください。

- 高峰武(2016)『水俣病を知っていますか』岩波書店
- 土本典昭監督(1971)『水俣:患者さんとその世界』DVD(107分)
- 土本典昭監督(1976/1987)『水俣病:その20年』DVD(43分)『水俣病:その30年』DVD(43分) 2作品同時収録

ゆっくり時間をかけて ワークに取り組みたい方は

教育に携わる一人一人が自分を棚上せずにESDの根本課題に取り組むワークに、ゆっくり時間をかけて向き合いたい方は、ワーク編《拡張版》の進め方でやってみてください。